

# 拇指 MP 関節過伸展損傷

林 浩一 (柔整連合研究会 北多摩支部 林接骨院)

key words : metacarpophalangeal joint of the thumb, dislocation, locking

【はじめに】 拇指 MP 関節過伸展損傷には骨折・靭帯/腱損傷・ロッキング・脱臼・などあるが、ロッキングと脱臼との鑑別は外見上からは判断に迷うことがある。今回、脱臼の既往歴のある 10 歳男児が来所されたので、過去の症例と合わせ報告する。

## 【症例 1】

年齢：10 歳男児

負傷日時・原因

平成 28 年 6 月 13

日午後 8 時 30 分頃

柔道寝技稽古中、右手

掌を畳に衝いた際拇指

が過伸展となり負傷。



直ちに 2 次救急の病院などに連絡するも担当医の不在等の為断られた後、同日午後 9 時 30 分頃、母親と来所。

問診：既往歴：平成 25 年『右拇指 MP 関節脱臼』・近隣の整形外科受診し脱臼と診断。何度も整復操作を行うも整復されず 30 分ほど整復に時間を要し、1 週間の固定 1 か月間に数度通院し中止した。

症状：外見上右拇指 MP 関節は過伸展位、IP 関節は屈曲位をとり背側脱臼様の変形を認る。MP 関節掌側部に中手骨骨頭を触れ、関節裂隙部の圧痛、自動運動不能、弾発性抵抗を認める。

整復操作：診台に仰臥位とし柔道着の帯で肘関節部を固定。左手で患者の右第一中手部を保持固定し、基節部を右手母指、示指でつまむように把握。

① 基節骨を過伸展しそのまま中手骨遠位方向へスライドし乍ら基節骨を末梢方向へ 両拇指で押しやる。基節骨が中手骨骨頭を超えると同時に屈曲するも整復感なし。

② 再度基節骨をグラツカセ乍ら、末梢方向へ両拇指で押しやる、基節骨が中手骨骨頭を超えると同時に屈曲するも整復感なし。

③ ①を行った後その位置で基節骨を関節方向に軸圧をかけ僅かに回旋させるとグツグツと整復音あり。

自力で MP 関節を屈曲させ自動運動可能。ロッキングが解除されたと判断した。

整復操作後 MP・IP 関節軽度屈曲位でアルフェンス、湿布、包帯、三角巾で固定。

経過：翌日 外形写真を持参し協力医受診

診断：右拇指 MP 関節脱臼 で良いでしょうとコメント

2 回目の負傷の為 3 週間の固定の指示あり

疼痛消失。腫脹増大、掌背橈側裂隙の圧痛、自動運動不能

3 週後 協力医受診。X-P 上良好 アルフェンス除去

6 週後 掌側部に軟部組織の肥厚を触れ、他動的にルーズ

感があるが、可動域得られたため施術終了

延べ日数 46 日、実日数 12 日

## 【症例 2】

年齢：43 歳男性

負傷日時・原因

平成 19 年 8 月 4

日 13 時 50 分ごろ

サッカー指導中体側

(腸骨) に手を当て

立っていたところ飛

んできたボールが右手に当たり負傷。同日 14 時 10 分ごろ来所。

症状：右拇指 MP 関節は Z 字状変形を呈し自動運動困難、自発痛あり。

整復操作：症例 1 整復操作①を行い整復感あり

整復後 MP・IP 関節軽度屈曲位でアルフェンス、湿布、包帯、三角巾で固定。

経過：3 日後 協力医受診 診断：右拇指 MP 関節脱臼

3 週後 アルフェンス除去

12 週後 施術終了

延べ日数 85 日 実日数 15 日

【まとめ】 成書には諸説あり X-P 上中手骨と基節骨、種子骨の位置で脱臼、ロッキングを説いている。種子骨、掌側軟骨板の嵌頓は外科的に処置されるが X-P などで種子骨の位置や、骨折の有無など確認を行うことのできない場合、一つ間違えば患者に多大な迷惑をかけることになる。当院では事前に X-P を確認した上での整復操作ができない場合が多く、X-P や同意の問題もあるが多くの整復後の確認となる。症例 2 では負傷が土曜日の午後だったため、協力医の診察開始まで整復操作を行わずにいることは患者にとっても苦痛であり、徒手整復も困難になると考え、短い時間で説明し整復操作を行った。

今回 同部位の負傷歴がある患者の施術に当たり脱臼かロッキングか、骨折の有無はどうか、問診の内容から、前回はロッキングだったのではないかと考え今回の施術を行った。IP 関節の屈曲変形があり MP 関節の変形はあるが僅かで、垂直脱臼の外見上特徴的な Z 字状変形は完全ではなく、基節骨部がやや尺側方向への傾きが見られていた為ロッキングと判断したが、脱臼であった場合のことを考え不備な整復操作による整復困難を避けるため脱臼とロッキングの整復操作を行い、施術を終了できた。

協力医師：中村整形外科 中村正徳 先生

岩瀬整形外科 岩瀬育男 先生

